

特定非営利活動法人 21 世紀構想研究会

100 回記念シンポジウム実施案

開催日時：2013 年 6 月 11 日（火） 午後 6 時半～

テーマ：希望ある日本のために何をなすべきか

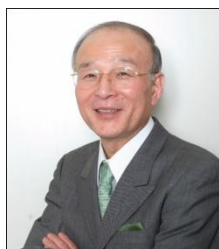
モデレーター 橋本五郎（読売新聞東京本社・特別編集委員）

パネリスト 岩本沙弓（大阪経済大学 経営学部 客員教授）

塩崎恭久（自民党衆院議員、元内閣官房長官）

藤嶋 昭（東京理科大学学長、東大特別荣誉教授）

柳澤幸雄（開成中学・高校校長、東大名誉教授）



橋本五郎さん

1946 年生。1970 年、慶應義塾大学法学部政治学科卒、読売新聞社入社。政治部、論説委員、政治部長、編集局次長などを歴任。読売新聞編集委員を経て現在同特別編集委員。日本テレビキャスター（「ジパングあさ6」「ズームイン!!朝!」）、東京大学経営協議会委員、NHK 中央放送番組審議会委員、東日本大震災復興構想会議委員などに就任。

読売新聞紙面でタイムリーなテーマで論評を執筆して多くの「橋本ファン」を作った。現在、読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」コメンテーターなどを務める。著書に『新聞の力』（労働調査会）、『総理の器量』（中公新書ラクレ）、『「二回半」読む』（藤原書店）、『範は歴史にあり』など多数。



岩本沙弓さん

1991 年東京女子大学卒。同年から日・米・加・豪の大手金融機関にて外国為替（直物・先物）、短期金融市場を中心にトレーディング業務に従事。日本経済新聞社発行のニューズレターに 7 年間、為替見通しを執筆。金融機関専門誌「ユーロマネー誌」のアンケートで為替予想部門の優秀ディーラーに選出される。

現在、為替・国際金融関連の執筆・講演活動の他、国内外の金融機関勤務の経験を生かし、参議院特別委員会にて参考人として出席するほか、政党関連の勉強会等の講師にも招かれる。大阪経済大学経営学部の客員教授を務めている。

主な著作に「新・マネー敗戦」（文春新書）、「最後のバブルがやってくる」（集英社）など。最新刊「バブルの死角」（集英社新書）は 2013 年 5 月発刊。



塩崎 恭久さん

1950年（昭和25年）生。1975年、東大学教養学部教養学科アメリカ科を卒業して日銀に入行。1982年にハーバード大学行政学大学院を修了、行政学修士号を取得。1993年、衆議院選に出馬して初当選。以後、衆議院議員6期、参院議員1期を務める。金融危機に伴う1998年の金融国会では、金融再生トータルプラン、金融再生法の策定に奔走し、政策新人類と呼ばれ注目された。衆議院法務委員長、外務副大臣を経て2006年の第1次安倍内閣で内閣官房長官・拉致問題担当大臣に就任。2011年3月の福島第一原発事故を機に「国会事故調査委員会」（憲政史上初めての国会内調査委員会）を立ち上げ、「原子力規制委員会」の創設を主導し原発・原子力問題に全力傾注。現在は、自民党政調会長代理・日本経済再生本部本部長代行として日本経済のデフレからの早期脱却に向けて鋭意取組み中。



藤嶋昭さん

1966年、横浜国立大学工学部卒業、71年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。神奈川大学工学部講師、東大工学部講師、助教授を経て教授、同大学院工学系研究科教授。東京大学特別荣誉教授。2003年4月より財団法人 神奈川科学技術アカデミー理事長、08年科学技術振興機構・中国総合研究センター長。2010年1月より東京理科大学学長。酸化チタン光触媒の原理を発見した業績で世界的に知られる。日本化学会賞、紫綬褒章、日本国際賞、日本学士院賞を受賞。2010年文化功労者。

学術的な専門書を数多く刊行したが、最近では子供の科学啓発教育に情熱を燃やしている。「時代を変えた科学者の名言」、「科学も感動から」（いずれも東京書籍）、「太陽と光しょくばいものがたり」（偕成社）など著書多数。



柳沢幸雄さん

1947年生、東大工学部化学工学科を卒業。コンピュータ会社のシステムエンジニアとして3年間従事後、東大大学院で大気汚染を研究し博士号取得。東大助手を経て、84年よりハーバード大学公衆衛生大学院に移り、研究員、准教授、併任教授としなる。1993年より、財団法人地球環境産業技術研究機構の主席研究員を併任。1999年東大大学院・新領域創成科学研究科教授、2012年東大名誉教授。主要研究テーマは、空気汚染と健康に関する研究。2011年より母校の学校法人開成学園・中学校、高等学校校長に就任。社団法人大気環境学会副会長、室内環境学会会長、臨床環境学会理事、NPO 法人環境ネットワーク文京副理事長などを歴任。主な著書に「化学物質過敏症」（共著、文春新書）、「CO2ダブル」（三五館、1997）など多数。